

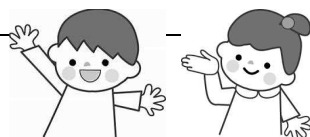
のびのび



平成30年度校長室だより 第10号 平成31年3月5日

湯田小学校の大切な言葉： あしたも会おうね 温かい学校 ～ 学び合い ～

30年度チャレンジ目標：湯田小ABC



感動！6年生を送る会

校長 伊藤 豊

子供たちによる卒業式、そんな呼び方がふさわしいかもしれません。在校生が卒業生に感謝の気持ちを送る集会を行いました。第1部では、5年生が中心となって作成したグリーティングカードをそれぞれのなかよし班から6年生にプレゼントしました。6年生からは、メッセージつきのしおりが在校生に用意されていました。

会場を体育館に移して第2部の始まりです。会場壁面は、未来に飛躍するたくさんの鳥と色とりどりのお花紙による「卒業おめでとう」の文字で飾られていました。少し照れくさい顔をしながら6年生が入場してくると、会場は大きな拍手に包まれました。この集会全てをプロデュースしているのが5年生です。ユニークなオープニングで、全校児童の気持ちは一気に6年生を送る会モードになりました。1年生は、6年生に呼びかけながら歌を披露しました。2年生は、カラー手袋も色鮮やかなダンスを披露しました。3年生もダンスでした。曲の最後にハート型風船を使ったクローバー模様のサプライズがありました。4年生は詩の群読と歌でした。6年生向けに歌詞が変えてありました。最後に登場した5年生は、ステージとフロアを使ってのロックンロールダンスでした。各学年の歌声やダンスで「ありがとう」を伝えるたびにステージに設置された袋に「ありがとうパワー」が貯まっていくという心憎い演出もありました。



いよいよ6年生です。「桜ノ雨」という歌とパフォーマンスを披露してくれました。会場壁面には、6年生が活躍してきたその時々場面が映し出されました。こうした交流の時間を通して、6年生から在校生へいろいろな思いが引き継がれていきました。

締めくくり全校で歌った「栄光の架け橋」には、…もう駄目だと全てが嫌になって逃げ出そうとした時も、想い出せばこうしてたくさんの支えの中で歩いて来た…という歌詞があります。今年一年間、6年生にはたくさん支えてもらいましたが、在校生にもたくさん支えてもらっていたのかもしれません。全校で歌い終わった後、ここでも5年生プロデュースによるサプライズ演出がありました。在校生一人一人が「ありがとう」と書かれた紙を掲げながら、6年生に向けて大きな声で「ありがとう」と贈りました。あの響きは、6年生の胸に長く刻まれていくことでしょう。

学校運営協議会を終えて

先日（2/27日）夕刻、第4回の学校運営協議会を開催しました。ご参加いただいた委員の皆様、本年度の本校の学校運営についてさまざまな観点からご意見をいただきました。大きく

話題になったのは、以下の2点でした。

○家庭学習習慣の確立

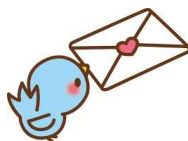
○子供たちの心の教育

本年度第2回の保護者アンケート結果でも既にお知らせしたように、家庭学習の習慣化に関する肯定的なご意見は、64.3%→65.7%でした。微増ではあるものの、見方を変えると、3人に1人は、習慣付いているとは言えない状況です。学校からは、年度当初に「家庭学習のてびき」を保護者向け／子供向けに配付して連携を呼びかけていること報告しました。この点に関しては、委員の皆様から「仕事の関係で生活時間に変化が見られる」「宿題はしているが、それ以上の学習を求めてもやりたがらない」「子供が学習する姿を見逃しているのでは」「中学生も習慣化が課題である」といった現状分析がありました。これらに対して、学習を朝型へ切り替えてみる、子供が学ぶ目的をはっきりもつと意欲が出る、小学校の時から習慣化していないと、中学生になって急に習慣付かないといった意見が出てきました。

心の教育に関しては、いじめ問題やSNSトラブルが話題になりました。特に、保護者の知らないスマホの操作やゲームの世界には気をつけていく必要があります。「やさしい言葉」とは正反対の言葉で傷つけ合っては、学校で学んだかきがありません。基本的には、各ご家庭での約束によるしかありません。保護者には、子供を守る義務があります。必要な約束をしていただき、子供たちが悲しい思いをしないようにいたしましょう。

本校は、コミュニティ・スクールとして、保護者や地域の皆様と一緒に子供たちを育てています。これからも学校運営協議会を起点として、湯田地区とともにある学校運営に努めていきます。

こんなところに…「やさしい言葉」



やさしい言葉ポスト



校舎に3か所、やさしい言葉ポストが置いてあるのにお気づきでしょうか。やさしい言葉をかけられたり、やさしくされたりした出来事を全校に伝えるポストです。児童の発案で取り組んでいます。うれしかったエピソードは、やさしい言葉ポストに投函されます。それを毎週委員会児童がお昼の放送で紹介する仕組みです。「一人でいる時に、一緒に遊ぼうと声をかけてもらいました。うれしかったです。」「運動場で転んだ時に、大丈夫？と〇〇さんが心配してくれました。」といった調子です。これまで紹介された内容を聞いていると、やさしい言葉は、必ずやさしい行いを伴っ

ていることがわかりました。心が動くと、身体も動く。まさにJRCの精神「気づき、考え、実行する」そのものです。春から、全校で「やさしい言葉」を意識して取り組んできましたが、随分と子供たちの中に浸透してきました。やさしい言葉が少しずつ当たり前になってきていることは、とてもうれしいことです。今のところ、低学年児童の投函が多いようですが、これからますます広がっていくことが期待されます。



朗報！！最優秀賞受賞

日本赤十字社山口県支部が募集した、「JRC活動フォトコンテスト2018」の選考において、本校は見事最優秀賞を受賞いたしました。本校からは、JRC委員会の児童が共済苑に出向いて行った「ハンドマッサージ」の様子を応募しました。ハンドマッサージという肌と肌のふれあいが、子供やお年寄りの表情をととても優しいものにしたようです。